

講義名	対)研究演習		
講義コード	55413	授業形態	開講期・曜日・時限 通年 金曜日 5時限
担当教員	川合 宏之		備考

学部・学科	演習分野
経営学科・マーケティング学科 経済学科・経済情報学科	教育学・キャリア教育

概要説明

ゼミ全体の活動
本演習は、「なすこと」によって学ぶこと、つまり実践活動を重視しています。実際に学校教育現場で教育的活動の補助、具体的には子どもの遊びや学習の支援活動を行います。私の研究フィールドである高校だけでなく、小学校や中学校、地域など学外の様々な機関との連携により、児童生徒の集団的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもをより深く理解し、他者と連携協力して関わることのできる資質を養っていきます。

現行の学習指導要領では、学校は「地域の中の学校であること」、つまり学校と地域社会との連携をより強調しています。実践活動を通して地域社会とのコミュニケーション力や企画力、創造力を養うことの意義を学んでほしいと思っています。

学年ごとの活動
「研究演習」では、実践活動をベースに、自分の考えを表現する、他者のさまざまな考えに触れ、共有するといった活動を展開します。

「研究演習」は、実践活動をベースに、自分なりのテーマをもって、研究を深めます。文献購読によって、議論や研究のための学習をすとともに、個人研究のテーマをしぼり卒業研究につなげます。

「卒業研究」は、これまでの学びの集大成として、卒業論文の執筆に取り組みます。就職活動も含めて、個別指導を重視します。

主な卒業論文のタイトル

「高校生と大学生の視野の違い」
「生徒と子ども」
「高大連携が生む相互成長の効果分析 - フィールドワークの体験から -」
「高大連携授業における高校生のキャリア意識と学習意欲の変化」
「高大連携活動の成果とこれから」
「高大連携の必要性について」
「高大連携における学習効果 - 実践研究の事例から -」
「高大連携の重要性 - ナナムの関係 -」

教員よりの要望

本演習は実践活動を重視しているため、以下のことを学生に求めています。

企画を学生自ら立案・実行し、またそうした活動を他者に向けて情報発信できること。
活動を進める場合は、ほとんどがグループでの協働作業となるため協働性を大切にできること。
ゼミの時間以外で活動に費やす時間も多いため、意欲的・積極的に取り組めること。

選考方法

面接、演習申込書、成績（単位取得状況）などによって、総合的に判断します。

評価方法

出席はもちろん、ゼミへの取り組みの態度や成果、貢献度などによって総合的に評価します。

教員英字氏名	研究室
Hiroyuki Kawai	3405研究室（研究棟 4階）

最終学歴

関西大学大学院 心理学研究科 博士課程後期課程
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）

学位

博士（心理学）、教職修士（専門職）

主な研究活動・社会活動・研究業績

教員プロフィールを参照してください。
https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_ka/kawai

趣味・特技

テニス、映画鑑賞、資格取得

所属

商学部経営学科

所属学会

日本商業教育学会、経済教育学会、日本キャリア教育学会、秘書サービス接遇教育学会

専門分野

高等学校商業教育、職業教育
キャリア教育、高大接続・連携

担当科目

商業科教育法、生徒・進路指導論、職業指導、ビジネスプラン論、キャリアビジネス論、研究演習、研究演習、卒業研究、自己発見とキャリア開発A、自己発見とキャリア開発B

備考

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践をしてきた。それらの知見や経験を生かし、高校や地域など学外の様々な機関との連携により、アクティブ・ラーニングを取り入れたゼミ運営を行っている。